

2026年2月15日 主の変容「起きなさい。恐れることはない。」北川逸英師

出エジプト記 24:12~18 2ペトロ 1:16~21 マタイ 17:1~9

今日は「主の変容(しゅのへんよう)」のお話です。少しむずかしく感じる場面もありますが、ゆっくり、ひとつずつ聞いていきましょう。

1. 神さまの前で、人はこわくなる 福音書で、弟子たちはイエスさまのお姿が光り輝くのを見ました。雲が現れて、そこから声が聞こえます。すると弟子たちは、地面にひれ伏して、非常に恐れたと書かれています。これは、特別な人だけの話ではありません。

神さまの前に立つとき、私たちはだれでも、心が小さくなったり、不安になったりします。なぜなら、神さまの光は、私たちの心の中まで照らすからです。「大丈夫なふり」をしていても、本当は抱えている心配や、傷や、後悔や、怒りや、ねたみがある。私たちは、それを隠しきれません。

2. 律法は、私たちの罪を見せる 出エジプト記では、神さまの栄光が山の上で、燃える火のように見えたとあります。そして神さまはモーセに、石の板——つまり「教え」と「戒め」を与えられました。この神さまの教えを、教会では「律法(りっぽう)」と言います。

律法は、私たちに正しい道を示します。でも同時に、もうひとつの大事な働きがあります。それは、**私たちが罪人であることを、はっきり見せること**です。私たちは、口では「愛します」と言いながら、心では人を裁いてしまう。ゆるします」と言いながら、ずっと恨みを持ってしまう。

「神さまを信じます」と言いながら、不安でいっぱいになる。律法は、そういう私たちを照らし出します。だから、律法の前では、人は恐れます。弟子たちが恐れたのは当然です。神さまが怖い方からではなく、**自分の姿が見えてしまう**からです。

3. けれど福音は、倒れた人を起こす しかし、ここからが福音(ふくいん)——良い知らせです。弟子たちが恐れて倒れているとき、イエスさまは近づいて、手を触れて言われました。「**起きなさい。恐れることはない。**」 みなさん、ここをよく覚えておいてください。イエスさまは、恐れて倒れている人を、そのままにされません。近づいて、触れて、起こしてくださいます。

4. 義認の恵み——神さまが「あなたは正しい」と言ってくれる

ここで、今日いちばん大切なことをお話しします。それは「義認(ぎにん)」という恵みです。少し難しい言葉ですが、意味は簡単です。**義認とは、神さまが罪人の私たちに向かって、「あなたは正しい」と言ってくれること**です。

神さまが「正しい」と言ってくれるのは、私たちが立派だからではありません。私たちは、弱い。私たちは、失敗する。私たちは、愛せないこともある。そして、罪を持っている。それでも神さまは、

イエスさまのゆえに、私たちを受け入れてくださいます。イエスさまが、私たちの罪を背負って十字架にかかり、復活してくださったからです。だから私たちは、こう言ってよいのです。

「私は罪人です。けれど、キリストのゆえに、神さまは私を義としてくださいます。」

これが、義認の恵みです。

5. 「これに聞け」——救いの中心はイエスさま 雲の中から声が聞こえます。

「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者。これに聞け。」

神さまは、私たちに「もっと頑張れ」と言われる前に、まず「イエスに聞け」と言われます。救いの中心は、私たちの努力ではありません。私たちの正しさでもありません。

イエスさまご自身です。そして弟子たちが顔を上げると、こう書かれています。「イエスのほかにはだれもいなかった。」最後に残るのは、イエスさまです。私たちは、イエスさまによって、神さまの前に立たされます。

6. 結び: 恐れの中でも、主はあなたを起こしてくださる

私たちは、それぞれ違う歩みをしています。体の弱さを抱えている人もいます。生活の不安を抱えている人もいます。言葉や習慣に慣れず、緊張しながら毎日を過ごしている人もいます。また、長い人生の中で、いろいろな後悔や痛みを抱えている人もいます。

でも、今日の福音ははっきり言います。

「起きなさい。恐れることはない。」

主は、強い人だけの主ではありません。うまくできる人だけの主でもありません。

恐れている人、倒れている人のところへ、主は近づいてくださいます。

そして、罪人の私たちを、キリストのゆえに義としてくださいます。だから私たちは、恐れにのみこまれずに、歩み出すことができます。今日も主は言われます。

「起きなさい。恐れることはない。」